

で多忙な社協では無かったような記憶がある。

たとえば、県社協主催の専門員研修会の内容も「キャップハンディ」の体験学習や「広報誌の作成方法」、「会議や研修会の持ち方」等々基礎的な研修が多く、県社協のスタッフも市町村社協の職員を研修指導しているのだが、一緒に楽しみながら学んでいるというのが実態のようだった。

更に、宿泊の研修会などで県内の市町村社協の職員と県社協の職員が集まると、夜な夜なアルコールを飲みながら「社会福祉協議会とは何ぞや・・・」とか「住民主体の地域福祉とは・・・」みたいな話をつまみに毎回楽しく熱く語り合っていた。

そこでは、社協に入ったばかりの新人も一〇年・二〇年のベテラン職員も区別なく、むしろ新人が先輩諸氏にまだ青き社協への思いや、自分が目指したい社協マン像やあるべき社協像をぶつけ、そして悩み、励まし合うような素晴らしい環境がそこにあった。しかし研修が終わり地元に戻ると、悶々とまた一人で壁にぶつかる。

そんな繰り返しを続けながら、また仕事へのモチベーションを高める。また、口では「地域福祉」や「住民主体」を吐露するが、自分の中にはその実体はなく、地域の中で何を行えばよいのか、住民とどのように向き合い、どのような関係を築けばよいのか皆目検討がつかず、ここでも見えない壁に

ぶつかる。

そんな時、事務所でもウジウジと考えているうちにあかぬいと、重い腰を上げ地区社協で行われる事業や会議に出席する。地区社協で活動している地元のおじさんやおばさんから顔を出すだけで歓迎され、しかもこちらが仕掛けた手探りでやっている事業や会議なのに、地域の方々の方が熱が入り、ついついこちらも引きずり込まれる。

地域の住民のパワーにこちらが勇気づけられてきた。また、障害者諸問題を模索する中、様々な障害を持つ当事者の方々と出会い、共にいろいろな問題をまじめに討議したり、バリアフリーといわれる以前から道路・公共施設等の生活環境における現地点検に取り組んだ。アフターファイブでのお付き合いの中で、障害について初めて知ることとたくさんあった。私たちが常識と思っていたことが実は当事者からすると、非常に迷惑で困ることだったり・・・逆にこんな事をするのが「迷惑になるのかなー」と思っていたことが実は当事者にとっては快適なことだったり、当事者の方と深く関わらないと知り得ないことなど、初めて知ったときの感動はいつも私をハイにしてくれる。

それが一度や二度でなく、この二〇年間連続的に色々な人たちとの出会いがそうさせてくれた。まだまだ思い起こせば、色々な支えが私を包んでくれていると思う。

これから先、どんな人たちと出会い、どんな知らないことを学ばせてもらえるか胸がワクワクする。



八月の中旬、突然我が家の管轄の区長さんから電話で「国勢調査員をする人がどうしても足らんけん頼みます」という依頼があり、九月下旬から活動し出すとのことで丁度時期的に「共同募金」と重なるので断ろうかと思っただけ、こちらも同じ頃共同募金の協力を頼まなくてはならないので引き受ける羽目になってしまった。

それで、職場内に以前調査員をされた方にどのようなことをするのかを尋ねてみると「やおいかんかった」とか「中には変な人もおってやかましく言われた」などいろいろ脅され、少し後悔をしましたが、とりあえず引き受けたからには、「せなあかん」とあきらめた。

その後、九月初めに説明会があるとの文書が届いた。この調査は国内に住む全ての人が対象で、大正九年から始まり、その後五年に一度され現在まで続いているのだそうだ。

また、調査員は非常勤の国家公務員という立場で、当然各家庭に訪問するのでプライバシーを厳守するために守秘義務があるということ。

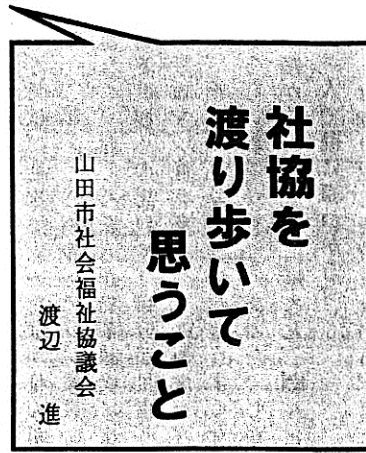
そして調査が終わったデータは、人口と世帯、更には統計や調査の基礎データとして活かされ、行政の社会福祉や都市計画など、様々な分野で活用しているということ。その後、勤めを終えた調査票は即リサイクルするため溶かされ処分されるということ。

特に、説明会では調査員が訪問する時の対応についてを念入りに説明していた。というのも、今までにそういったトラブルが発生していたようである。経質になっていたようである。

一〇月一日に全国一斉に始まるため、九月下旬にチラシを担当世帯(約五〇数件)に配布し、その数日後に調査票を各戸に配布し、記入してもらって後日回収するのである。しかし、今時はそれも簡単にいかず、ワンルームマンションの単身世帯や共働きの世帯が増え、なかなか会えず何度も足を運んだ世帯が何件もあった。しかし苦情を言われたことは無く、皆さんが協力的で幸いであった。

そして何とか回収し終わり、調査票をまとめて「やっとこれで終わった」とホッとしたのも束の間、自信を持って役場に持っていったのだが、「ここが記入漏れ」とか「地図が見本どおりではない」とか言われ突っ返されてしまった、トホホ。

それで記入漏れの箇所を先方に再度電話で聞き取りをして記入し、ようやく提出して終わった。いろいろあったが、全国規模でかなりの費用と人員を使って行われる調査なので有効に活用されることを願っている。



先般、隣町の社協から「まなこ」への寄稿依頼があるのでよろしくという電話があつて、その後音沙汰がないので、この話は無かつたんだらうと安心して書いたところ、突然の公文書による依頼が届き、ちょっとガツカリ。

とは言うものの、受けたからには何かを書かねばと思案しつつ、これまで社協を渡り歩いて感じていることに、ついでに少し書いてみることにしました。私が社協の仕事と初めて出会ったのは昭和六二年まで遡り、早いもので一三年もの歳月が過ぎました。

社協活動のスタートとなったのは、東京多摩地区にある人口一〇万人弱の

市社協で、その後広島県内で最も人口の少ない(八七〇人)村社協へ、そして山口県内で事業型社協の推進で最先端を行く町社協へと渡り歩き、ついには本年四月より、山田市社協で働くこととなりました。

今でこそ、全国各市町村社協で働く社協職員の中で、大都市から超過疎の村までの社協活動を経験した人間はめったにいないんだから、この経験は絶対に貴重だとプラスに思えるようになりましたが、このように思えるようになるまでには相当の時間を要しました。

市、町、村の社協を渡り歩いて今最も感じていることは、「そこで生活する住民の生活課題の解決のために、最後の砦として応えていくこと」と言い換えるならば「一人の福祉ニーズに応えていく」というスタンスこそが、社協活動の原点ではないか、またそのことへは取り組みが社協には不足しているのではないかということ 생각합니다。

このように書くということ、これまでの自分の対する戒めもあるわけで、山田市社協での今後の活動の糧にしていきたいと思っています。

なぜ、このように感じるかということについて書いてみたいと思います。東京から広島県の超過疎の村に転居したのが平成八年四月でした。その村は高齢化率三五%を越えた上、無医村で、かつ特養もデイサービスもなく、(平成一二年からはデイサービスセンター)が設置されたとのこと)また、冬

には積雪が一メートルを超え、公共交通機関も一日三本の路線バスのみ、また、買い物ができる町までは四〇キロの山道を下りなければならぬという、東京から突然転居した私達家族にとってはカルチャーショックにも等しい衝撃を受けたことを覚えています。

このような地域特性を目的の当たりにした時に、東京で社協活動を一〇近くやってきましたという自信みたいなものはふつとび、逆に、東京では住民の生活ニーズが見えていなかったし、また、積極的に見ようとしなかったこと、さらには生活感の乏しい活動をしてきたことに気付かされました。

社協は、直接的なサービス提供よりも地域の組織化やボランティアの育成など、いわゆる社協の本来機能にこそ力を注ぐべきという、これまで自分なりに持っていた考えについても、ちょっと待てよ、と思うようになりました。

(その機能は十分とめつつも)その理由は、住民にとつては、今すぐ何とかしてくれるサービスなり活動なりが最も必要で、その術を持たない社協では、本当の意味で頼りにされる組織にはなれないと感じたからです。

このことは、現在の社協と介護保険事業との関わりにも関係する部分であり、私は住民からの付託に応える意味でも積極的に介護保険に参入した方がよいのではないかと考えている一人です。ただ問題があるとすれば、分業化されていない社協の組織機構こそ

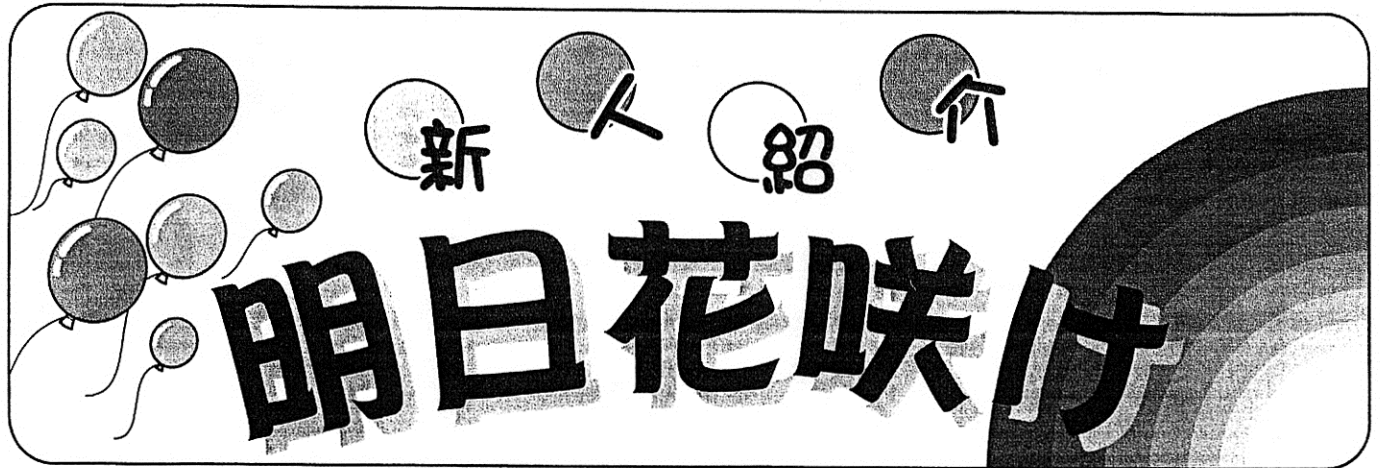
が問題で、そこを事業部門と地域活動部門等とに分業化し、組織内での連携を図っていくことができれば十分やっつけられると思うのですが、いかがでしょうか。

社協は、社会福祉法の誕生により、地域福祉を推進することを目的とする団体として明確に位置付けられ、構成要件や事業も大きく見直しが図られています。地域福祉推進の基本は、住民の福祉ニーズ解決への対応であり、そのためには、「社協活動の中に「住民の日常生活感」を感じ取れるシステムや感性を研くことがまず必要ではないか」と思います。

その上で、住民参加やボランティア、さらには関係者の参加を進めながら、その課題解決に取り組むという社協本来の活動スタイルを実践することが求められているように思います。

私は、これまでに行つた各市町村で多くの知人や友人に出会うことができ、また、仕事を離れても末長くお付き合いのできる人の財産を作ることができました。

この方々に恩返しする意味でも、これから山田市の福祉充実のために微力ではありますが、努力していきたいと思っております。もうこれ以上、南下することがないように頑張ります。



新 人 紹 介

# 明日花咲け



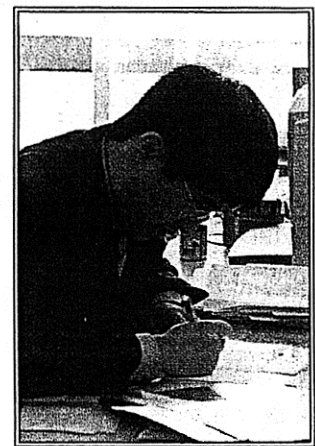
八女市社会福祉協議会

河野 文彦

・経験年数 七年一ヵ月  
 ・趣味・特技 レクリエーション活動

時間が流れるのは早いもので、八女市社協で七年が過ぎていました。思い返してみると、市民の皆様、職場の方々には迷惑をかけっぱなしで、何をやっていんだと言われそうですが、本当に今まで数え切れないほどの出会い、経験をしてきたと思います。

二〇〇〇年(ミレニアム)の四月より、地域福祉係で福祉活動専門員となりました。これからは、今までの経験を生かし、あまり構えることなく、地域の方々のニーズをくみ取り、初心に戻り、活動をしていきたいと思っています。また、こちらに来られた時は、ぜひ八女市にお立ち寄りください。HOUTできることと思います。



筑紫野市社会福祉協議会

大東 且人

・経験年数 七年一ヵ月  
 ・趣味・特技 目押し(パチスロ)他  
 森の中を散策etc

八年目で、心機一転。援助職員からボランティアセンター担当ということになり、一から出直したばかりです。ボランティアセンターとは、どんな役割を持ち、何を行うところなのかを机上ではなく実際に実践(いろいろな方にサポートいただきながら)し体感しながら今日この頃を過ごしています。

抱負としては、『人の話を聞く。』をテーマとし、いろいろなことを模索し、仲間(各社協職員の方々)の意見を聞かせていただき、考えながら実践できればと思っています。

筑紫野市ボランティアセンターは社協とは別の場所(同じ建物にはあるのですが別のフロアです)にあり、日頃は一人で仕事をしております。何かありましたら、一声おかけください。



須恵町社会福祉協議会

平田 重彦

・経験年数 一年五ヵ月  
 ・趣味・特技 琵琶の弾き語り  
 世界の宝くじ

みなさんこんにちは。須恵町社協の平田と申します。私は主に当社協が運営する知的障害者通園事業の指導員を担当しています。以前勤めていた特養老人ホームとは違う難しさ、楽しさを感じています。良かれと思っていた処遇方針が実は素っ頓狂だったりすることもあります。幸い当社協は事務局長を始め、明るい職員ばかりなので、笑いが絶えません。そういう意味では「癒し系社協」とでも申しませうか。

これからは社協本来の事業にも関わっていきと思いますので須恵町という地域の特性を踏まえ、いろんな方の声に耳を傾けたいと思います。また、その中で自分の役割を考えながら仕事を進めていけたらと思います。



岡垣町社会福祉協議会

神谷 直美

・経 験 年 数 一 一 月  
・趣 味・特 技 ピアノ

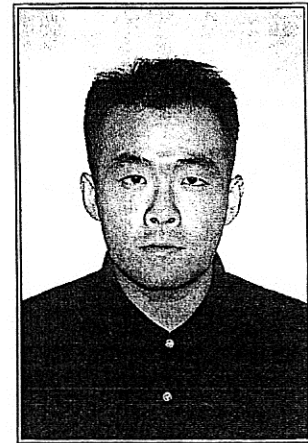
今年度の四月より岡垣町社会福祉協議会に勤務しています。

福祉とは全く関わりのない生活を送っていた私ですが、これも何かの縁と思い、日々社協の仕事を通じ勉強に励んでいます。

社協の仕事は民生委員さんやボランティアの方々など、地域の人に支えられている面が大きいと最近実感しています。

まだまだ仕事を覚えることに精一杯で失敗することもしょっちゅうですが、この地域の人のつながりを大切にしながら、諸先輩の指導の下、がんばっていきこうと思います。

そしてゆくゆくは地域の方々からの相談に即座に対応できるような職員になりたいと思っています。



赤池町社会福祉協議会

太田 貴幸

・経 験 年 数 六 年 一 一 月  
・趣 味・特 技 テニス

体を動かすこと

今年で社協に入り六年になります。

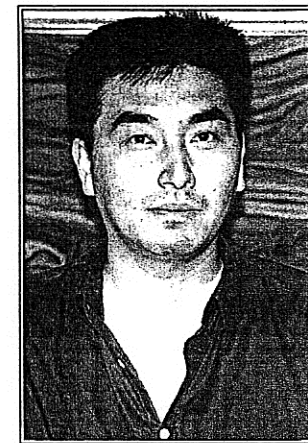
これまでいろいろと体験、経験させていたがながら、四月より福祉活動専門員として新たな気持ちで地域福祉を見つめています。

ただ、介護保険事業の訪問入浴介護にも従事しており、二つの責務を両立していくには、困難ではあるけれどもやりがいも感じつつあります。

今のところ両立するには、程遠く正直言って大丈夫かなという感があります。

しかし、諸先輩方が買いてこられたコミュニケーションを自身でも取り組みを行っていかねければという気持ちは人一倍強いつもりです。

できれば早く両立ができるようにがんばりますのでご指導の程宜しくお願ひします。



苅田町社会福祉協議会

古賀 靖教

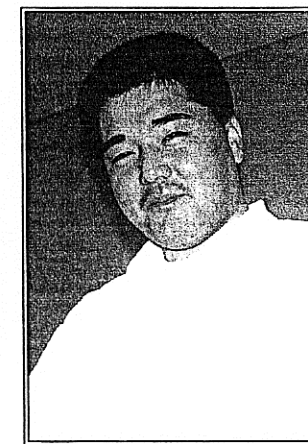
・経 験 年 数 六 年 二 月  
・趣 味・特 技 野球・競馬

経 験 年 数 は 長 い の で す が 、 そ の ほ と ん ど が デ イ サ ー ビ ス で の 経 験 な の で 、 ま た 、 一 か ら 地 域 活 動 担 当 職 員 と し て 勉 強 し て い き た い と 思 っ て い ま す 。

苅田町で生まれた私ではありますが、地域のことはほとんど何も知りません。

あえて知っているところをあげるならパチンコ屋ぐらいでしょうか。

これからたくさん地域に足を運び、多くの人の触れ合いを通し、よりよいまちづくりに貢献できるように、頑張りたいと思います。



苅田町社会福祉協議会

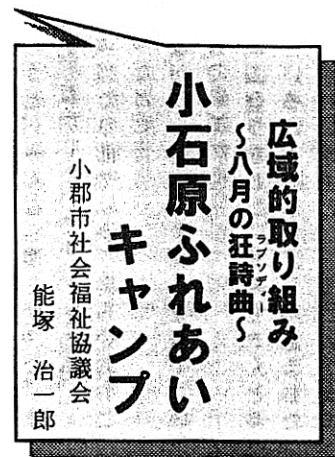
藤澤 桂太

・経 験 年 数 四 年 四 月  
・趣 味・特 技 野球・ドライブ

平成八年十一月に苅田町社会福祉協議会に入り、早いもので、約四年の月日が経過しようとしています。

今回「まなこ」での「新人紹介」の協力依頼がきた時、「社協っていつまでが新人なんだろうか。」と不思議に思っていました。が、地域担当職員としては、まだ一年も経験がないので、今は改めて、社協に入った頃のフレッシュな感じで毎日頑張っています。

今後は、今までの経験(訪問入浴・デイサービス)を生かして、地域活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、諸先輩方、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。



### ① 夢 DREAMS

このとんでもない事業の発起人は私にこの原稿を依頼した人で、この後、「作業所（白鳥の家）の紹介」をする人です。

その人が書いた、前回報告文書の一部を紹介しましょう。

『県社協ボランティアセンターから、学童・生徒のワークキャンプ事業として、施設などでの体験をしませんかという文書が送られてきました。』

通常ならば、近隣の施設などに相談なり連絡をして、施設と社協が共同で、一日の流れや作業などの体験を実施していくものなのでしょうが、この事業にちよつと違った内容で申し込めないか問い合わせしてみました。

私たち両筑管内のいくつかの社協（杷木町・朝倉町・三輪町・大刀洗町・田主丸町・吉井町・浮羽町の七社協）では、数年間からある相談事業（結婚相談事業）の一環で共同開催のイベント（お

見合いパーティ）を企画運営してきました。その流れもあって、社協間の交流も多く「夢」のある話をする機会もたびたびありました。その一つが「ふれあいキャンプ」です。

社協事業は高齢者や障害者に対しての取り組みを中心に行っています。反面、児童福祉や母子家庭などへの対応はというと、旅行やハイキングの金銭的な助成などは行っていませんが、その内容にまで詳しく注文をすることはまずありませんでした。遊園地などに遊びに行っても、参加者は各自にバラバラで遊ぶ姿を見ながら、この事業の目的はいいたい何なのだろうか疑問に思うこともありましたが、参加者自身にもっと価値のある体験を経験してもらえないものかと考えることもありました。そんな時、スタッフの「夢」を語らう雑談の中から出てきたのがみんな楽しんでキャンプをやってみたらということでした。しかし、普通の教育キャンプであれば、我々社協では管轄外（？）教育委員会がすれば・・・の可能性がありましたので、特に母子父子家庭の子どもたちに、ふれあいの機会や自然体験をさせてあげられるような**社協のキャンプ**をやってみようということになりました。』

### ② 蜘蛛巣城

さて、昨年度は前述の七社協で「大島ふれあいキャンプ」を大島村社協の

遠藤さんの熱烈歓迎を受け実施したわけですが、両筑ブロックの代表をしている私に「来年は両筑ブロック全体でやりましょう」と前回発起人の弁。実は前回のキャンプに仕事を休んでスタッフとして参加しておりまして、どんだん蜘蛛巣に近付き、発起人の獲物になりそうな私であり、実際、事務局を持たされました。

### ③ 七人の侍

今年で二回目、ブロック全体の取り組みで初めての「ふれあいキャンプ」実行委員形式で勘兵衛（朝倉町社協江藤局長）以下六人（浮羽・國武／小石原・和田／夜須・甲斐／大刀洗・池松／杷木・池田／小郡・能塚）で進め、前回は海、今回は山ということ、小石原村社協の喜楽館という自然だけに囲まれ、とっても素敵で大変リーズナブルな館で二泊三日で実施決定！

### ④ まあだだよ

ブロック全体となると当然難題は出てきます。規模が大きく、事業が大掛かりになり大変です。

まず予算の問題、前年度に各社協に少しずつ予算を組んでもらい、朝倉町社協に県ボランティアセンターからワークキャンプの指定を受けてもらいました。ウーンこれで朝倉町社協はしばらく指定を受けられません。

それから参加費。ある高校生は、母校が甲子園に出場し、寄付金のため参加費が出せないといった事情があったり、三人兄弟が三人とも参加したら参加費も結構負担になります。

後の不足分は私ども両筑社協連絡会地域福祉担当職員部会の事業費から捻出しました。

次に参加者が集まるかどうか？

定員を決めて各社協五名程度の募集をしましたが、やっぱり市町村の規模が違いますので偏りがあってもいいけません。また参加人数の違いで生じる各社協の負担金等。実際参加者0の社協も三社協（内、村社協が二つ）ありましたが、両筑社協連絡会全体の取り組みということで会長・事務局長会でも承認を得ています。（一応私が一生懸命説明したけど、伝わったかな？）のでイケイケ！GO！GO！GO！GO！

### ⑤ 用心棒

キャンプの前日、準備がさー大変。買い出しは私と夜須町甲斐君。竹の切り出し（流しそうめん・竹飯盒・箸、おわん作り用）は喜楽館の裏に田んぼと竹林を持つ小石原村和田君と杷木町池田さん、浮羽町國武君。もう二度とやりたくないと言っていました。

ボーイスカウトと青少年問題に限りない愛情を注ぐ杷木町の原田局長は、竹でご飯炊く釜を事前に作ってくれました。